

第58回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成29年3月31日（金） 13:00-14:20
2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
葛西委員長、松井委員長代理、遠藤委員、松本委員、山川委員、山崎委員
 - (2) 政府側
宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐伯審議官、佐藤参事官、高見参事官、松井参事官、守山参事官、行松参事官
4. 議事要旨
 - (1) 各部会・小委員会の検討状況について
 - ① 宇宙産業振興小委員会における検討状況について
宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。
 - 海外展開を支援するための長期持続的な支援体制について、熱心に活動する人を発掘し、肩書を与えると共に、費用面を含め継続的に動ける仕組みをつくることは、とても重要である。
 - 海外展開タスクフォースについて、エネルギーや資源に関する協力など他分野との連携を是非強めて頂きたい。
 - ② 我が国としての有人宇宙探査に対する考え方について
宇宙開発戦略推進事務局より、宇宙科学・探査小委員会及び宇宙産業・科学技術基盤部会にて取り纏めた内容について説明を行った。本内容を宇宙政策委員会の見解とすることを了承した。委員からは以下の様な意見があった。
 - 国際宇宙探査フォーラム（ISEF）は、有人以外も含めた宇宙探査を指すが、この「資料2」では有人探査についての内容であると理解した。その際、有人探査というと加勢や木星に人類を送り込むという事と捉えがちだが、この考え方では低軌道にある宇宙ステーションなど、いわゆる有人宇宙活動全般に関するものであると理解した。
 - 実施にあたって、資金の在り方を具体的に考える必要がある。
 - 目標や資金を考えるに当たっては、その意義や成果を考慮しながら具体的に検討する必要がある。
 - (2) 宇宙活動法技術基準小委員会の設置について
宇宙開発戦略推進事務局より、宇宙活動法技術基準小委員会の設置について紹介を行った。
 - (3) 宇宙基本計画の工程表改訂に向けて
宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見、質問があった。
 - 準天頂衛星の4機体制に向けて、これから連続して打上げていくことで存在感が高まっていくことから、これを活用した新たな利活用のアイデアがどんどん出てくると思われる。そういった勢いを踏まえた前向きなメッセージをこれから打ち出していくべきである。その際、2020年に行われる東京オリンピック・パラリンピック大会は世界からの注目が集まるイベントであるから、こうした機会を活用すべきである。

- H3 ロケットの開発がこれから本格化することとなる。それに向けてしっかり予算措置を講じるといえる意思が見えるようにすべきである。
- 衛星データの利活用促進に向けて、民間資金の活用や各種支援策の活用について、宇宙産業ビジョンでの議論を踏まえ、さらに前進させるべきである。
- 衛星データの利活用については、宇宙産業ビジョンや宇宙2法の整備の状況など、タイミングを見て効果的に実施してほしい。
- 宇宙デブリ対策については、研究開発が進むと大規模化し、政府としてどう予算を確保するかが大事になるので、よく考えて頂きたい。
- 国際連携を進めるための持続的な人材確保の実現に向けて、工程表もしっかりと明記すべきである。

以上